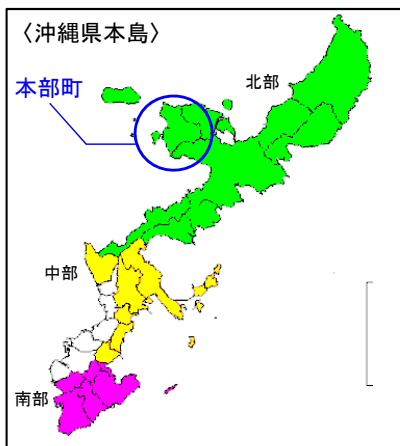


新規就農者による取組事例（農業未経験者が地域の方々の協力の下で農業に挑戦）〔沖縄県本部町〕

1. 地域農業の状況

○ 本部町は、沖縄本島北部の本部半島西部に位置し、八重岳、本部富士などの比較的高い丘陵が海浜まで裾野を広げている。平野には満名川が豊かに流れ、古くは流域に開けた低地を満名ターブクと呼び、稲作地帯が広がっていた。町の総面積54.3km²、東西南北8kmの中に変化に富んだ地形を含み、産業も農業、漁業、商工業と盛んに行われている。



○ 農業は、花き、サトウキビ、パイナップル、果樹、野菜と多岐にわたり栽培が行われており、沖縄県において唯一、アセローラの拠点産地に認定されている。

○ 本件の取組が行われた農地は、不在地主であったこと等から荒廃農地となっていたが、地域の農業者や役場の農業アドバイザー等が協力し、利用権設定等の調整を行ったことにより、貸借が可能となり、荒廃農地の再生が実施された。

2. 荒廃農地再生利用の取組

取組主体	新規就農者	地区名	本部地区
再生面積	0.42ha	取組年次	平成27年度
作付作物	パッションフルーツ	販路	中央卸売市場・直売所等へ出荷

新規就農者による荒廃農地の再生利用

- 当該新規就農者は、農業経験がなく、農業技術を学ぶため、沖縄県立農業大学校の短期養成コースへ入学し、卒業後の就農がスムーズにできるよう在学中から農業委員会等の関係機関への就農相談等を積極的に行い、農業制度資金の融資や交付金を活用し、荒廃農地の再生を行った上で就農することとなった。
- 荒廃農地の再生により、優良農地を面的に確保することができ、併せてビニールハウスを整備したことで、周年栽培による安定的な農業経営を確立している。
- 今後は、家族経営協定を締結して夫婦で農業経営を営み、パッションフルーツに加えてパイナップルなどの亜熱帯地域特有の果樹栽培を行うため、更なる経営面積の拡大に取り組んでいくこととしている。

活用した支援策

- H27 耕作放棄地再生利用緊急対策交付金(国)(再生作業・営農定着・施設等補完)
- H27 青年就農給付金(準備型)(国)
- H27 経営体育成強化資金・青年等就農資金



荒廃農地(再生前)



再生され、ビニールハウスが整備された農地



パッションフルーツの作付



パッションフルーツの栽培管理



新規就農された福井さん夫婦